

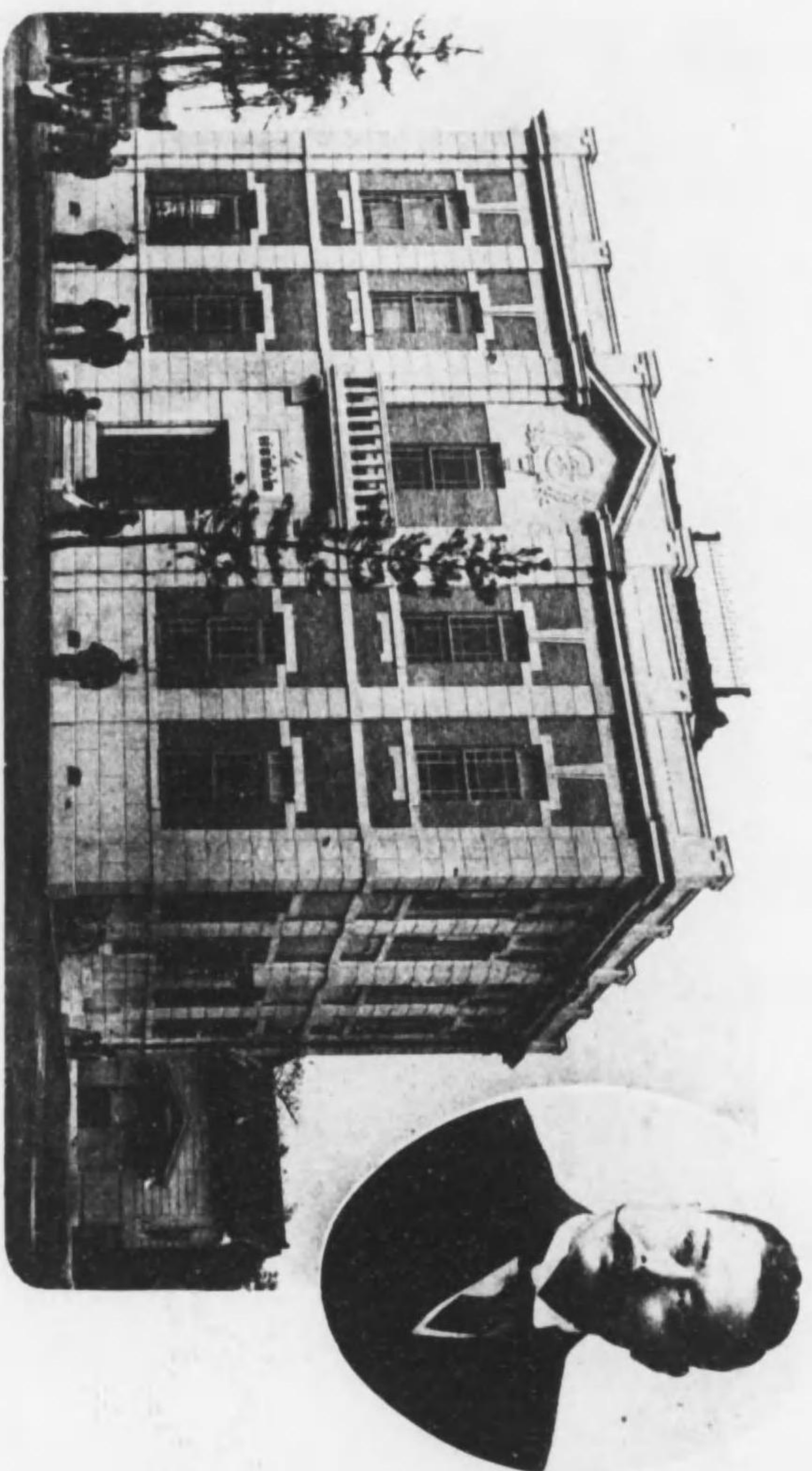
278
88

市立岡山圖書館要覽

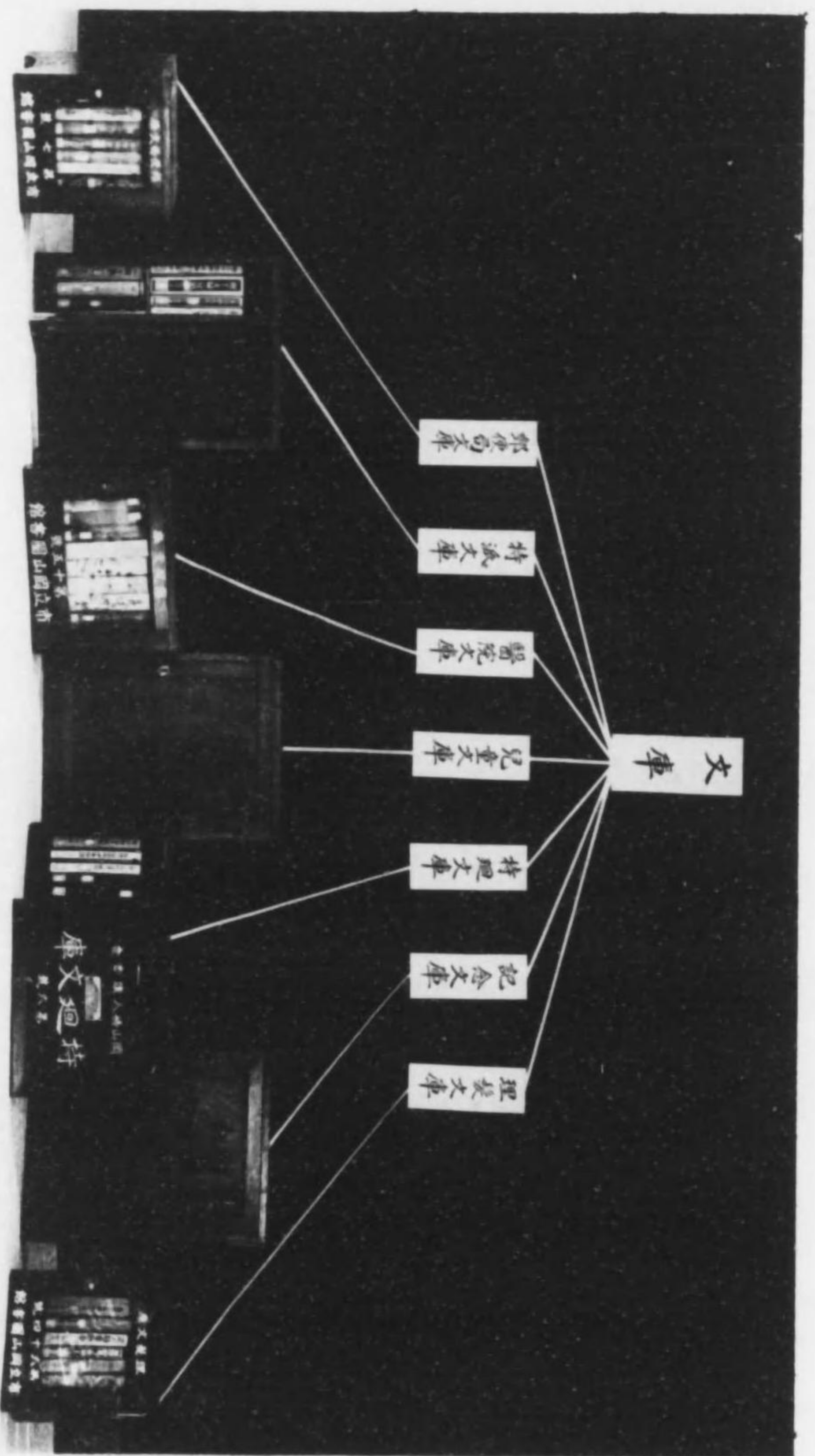


始





景全館本と氏郎三唯本山者附寄



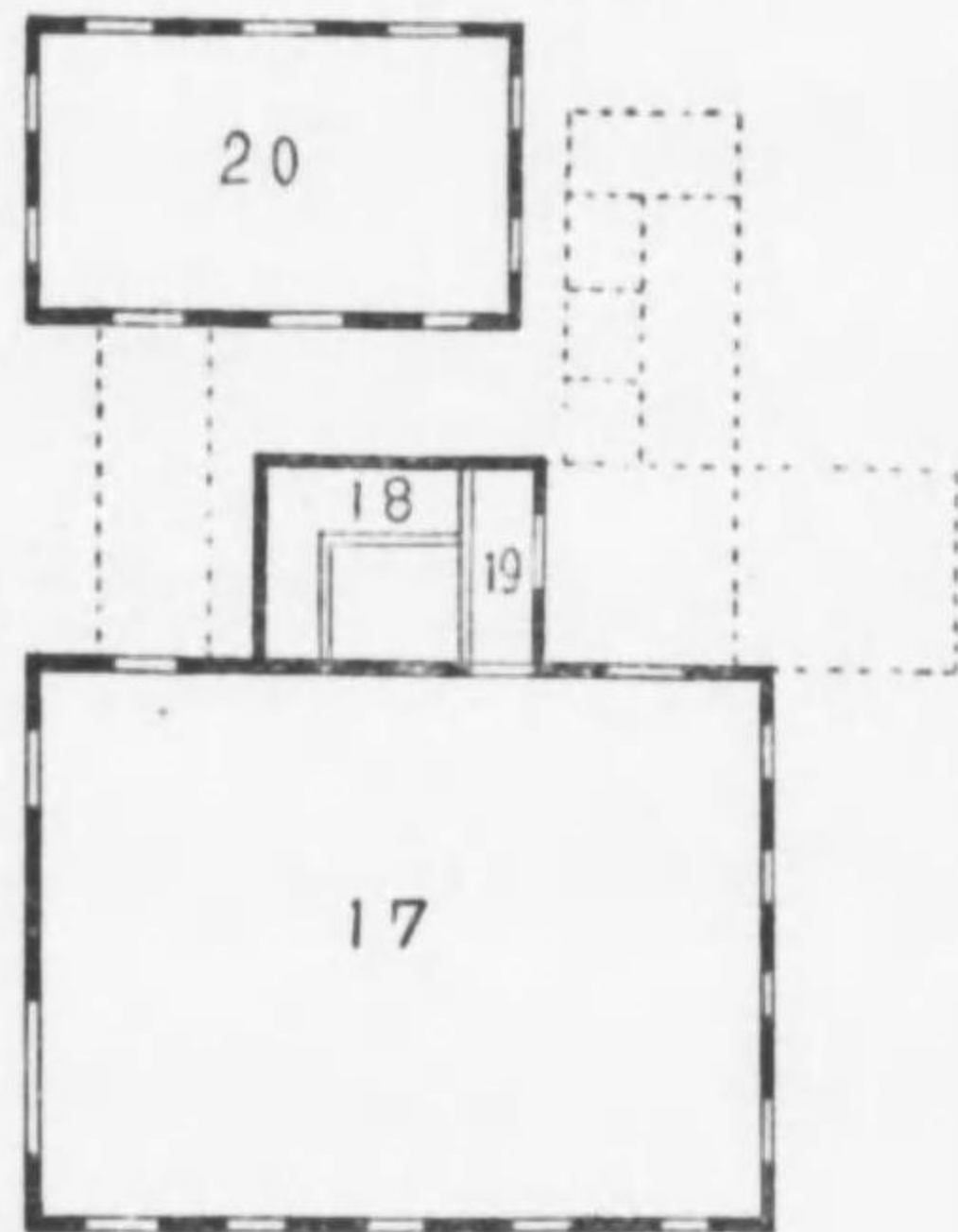
庫文出派外館

市立岡山圖書館配置圖

(下階)



(上階)



10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
階	書	裝	圖	目	兒	新	婦	事	支
		釘	書	錄	童	聞	人	務	
		出	納	室	室	室	室	室	關
段	庫	室	室	室	室	室	室	室	關
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
書	廊	階	普	自	物	使	小	昇	喫
			通	轉				使	降
			閱	車					烟
			覽	置					室
庫	下	段	室	場	置	所	室	口	室

目次

寄附者

山本唯三郎氏傳



事	排	目	分	藏	建	沿	
	列						
業	法	錄	類	書	物	革	
.....	
二六	二五	二四	一八	一二	九	一	



278-83

寄附者

山本唯三郎氏傳

山本唯三郎氏は岡山縣久米郡鶴田村の人青木要吉氏の令弟で明治六年其の郷に呱呱を擧げた。資性剛毅にして膽力を有し斷々乎として進取的氣象に富んでゐた。弱冠にして病弱醫師も死を宣告する程であつたが家貧にして藥餌に親しむことを得ず只靜養これ努めてゐた。六歳の時小學校に入りたるも在學僅かに二ケ年にして退學するの止むなきに至り家にありて箠割りをなし生活の糧を得てゐた。後ち僅か九歳の母戀しき少年時代大阪に出でて福音社の活版小僧となり夜間は中之島の泰西學館に學び英語を研究した。此の間氏が奉公人生活としての活躍振りは實に目覺しく奮勵努力堅忍能く困苦に堪へ孳々として其の業に従事した。後令兄青木氏の補助により閑谷營に入り漢學を修むること一年明治十四年轉じて京部同志社に入學したるも在學二ケ年にして休學するの悲運に遭遇した。茲に志學の年を超ゆる僅かに二三の氏は奮然決意する所ありて單身北

海道に向つた。其の目的は同地に農業を營みこれに依りて一家を扶養するの基礎を造らんとする強固なる決心であつたが弱冠にして單身頼るべき所なく且つ何等の資金をも有せず止むなく牛乳配達夫となり札幌農學校に入學した。北海の天地白皚々眼底一青だも映せざる吹雪の中寒氣凜烈膚を劈ざく脅威到底都人士の苦學の比ではない氏の堅忍不拔の一大決心は遂に氏に卒業の榮冠を與へ明治二十八年學校を去ることとなつた。當時氏が苦心の餘零碎の金六拾餘圓の貯蓄と氏の堅忍不拔自助自營の大精神とは遂に石狩河岸十萬坪の偉大なる一大開墾事業を成就せしむるに至つた。一青年たる氏のこの開墾事業の成功は不眠不休辛苦經營不斷の努力を致したる獨立自營心の賜で實に空前絶後の國家的一大事業と云ふべきである。開墾事業に成功したる氏は更らに自己の新運命を開拓すべく對清貿易事業に着眼し當時横濱第一銀行支店長市原盛宏氏及び澁澤男爵の紹介により伊藤氏の經營せる在天津の松昌洋行を引受け直接これが經營の任に當ることとなつた。松昌洋行は坑木又は枕木の材料を清國に輸出し清國よりは開平炭の輸入を營む貿易會社で氏は自ら社長となり奮勵努力經營其の宜じき

を得開平炭は遂に其の日韓一手販賣をなすに至つた。氏の商略的手腕は漸々益々進展し三井、大倉、其他二三の大會社と伍するに至り其の事業は彌々膨大して底止する所を知らざるに至つた。坑木輸出の一大成業者開平炭輸入の開祖としての松昌洋行の國家に致したる其の功績は實に偉大なるもので萬世不易滅することは出来ぬ。

氏は幼にして苦學奮闘青年にして開墾事業に着手し後一大貿易事業に従事し其の間修養のため事業經營の爲め東奔西走常に席の暖まる處もなかつた。然も郷土の發展向上につきては四六時中腦裡を脱せず大にこれが爲め資する所あらんことを期してゐた。特に氏が幼時より學修の資に恵まれざりし深刻なる体験は教育の振興社會文化の發展に資せんとするの決意をして益々深刻的ならしめてゐた。熱烈燃ゆるが如き氏の愛郷の念願は物々として禁する能はざるものがあり大正五年岡山新聞社を大正七年岡山圖書館を大正十年山本農學校を創設して社會教化、子弟訓蒙の機關たらしめんとした。氏が巨萬の資を揮し大成其名を世界に轟かしたるに甘せず進んでは郷黨の爲めに盡されたる其の功績は實

に偉大なるものがある。晩年東京市外吉祥寺に閑居し悠々自適静養せしが昭和二年四月十七日忽焉として逝く哀悼何ぞ堪へん享年五十五歳。

市立岡山図書館要覽



沿革 設立由來

市立岡山図書館の設立は大正七年で未だ我が國圖書館事業の發達せざる搖籃時代であつた。當時本縣の學校教育は夙に多大の普及發達をなし教育縣をもつて誇り全國に冠たるものがあつた。然るに圖書館事業に至つては本縣亦萎靡として振はず寧ろ等閑視さるるやの感があつた。教育は單に學校教育のみに限定されず人生生涯の修養學習の一大道場たる圖書館は學校と共に樞要なる教育機關として對等の位置を占め而も併行したる發達のもとに一体二方面の活動を爲さねばならぬ。特に文明國一般の趨勢として社會教育の進歩改善を企圖する上に圖書館が此れ等教育に對する好箇の殿堂として有力なる一機關たることは疑を容れぬ所である。文運隆盛地方文化の淵源として社會教化の魁をなすべき圖書

館が幾多地方人士の修養に裨補し産業發達上に資するもの多大なるべきことを痛感する。

本縣出身山本唯三郎氏は幼にして苦學奮闘刻苦勉勵片時も修養學習を怠らず遂に大成して其の名を世界に轟かした偉傑である。常に郷土の發展向上に力を致し殊に教育の普及發達を圖らんが爲め巨萬の資を投じこれが機運の促進を圖り貢獻するところ實に多大である。同氏當時本縣圖書館事業の萎靡として振はず地方開發上損耗多大なるべきを嘆き圖書館設置の必要を痛感し直にこれが設置につき岳父石黒涵一郎氏を通して本市に謀らる。本館設置の機運實に茲に胚胎し遂にこれが實現を見るに至つた。

開館以前

大正五年

○九月十八日石黒涵一郎氏は山本唯三郎氏の意を享け圖書館設置を本市に謀

らる本市は其の意を了とし直に市會に謀り滿場一致これを可決し元環翠尋常小學校の敷地を下しこれが設置を劃策す。○十月六日日本館規則を制定し岡山縣より圖書館設置の認可を得岡山市立岡山圖書館と稱す。○十二月五日山本氏は建築全部を時の市長岡田磐氏に委囑し市長は本市技手大賀孫一郎氏に命じこれが設計をなさしめ山下忠四郎氏に建築全部を請負はしめ茲に建築工事を起すに至る。

大正六年

○九月三十日建築工事落成す建築工費壹萬貳千九百貳拾八圓餘、開館準備費五千圓、計壹萬七千九百貳拾八圓餘は山本氏の寄附により外に特志者某圖書購入費として壹千圓を寄附せらる。

大正七年

○七月十七日岡山醫學專門學校書記松田金十郎氏に圖書整理事務を囑托し開館準備に着手す。○八月二十一日大河原生二氏に本館事務員を囑托す。○十月二十一日岡山市視學貞松修藏氏本館長事務取扱を命せられ本館事務囑托

大河原生二氏本館司書に任せらる。○十一月二十五日本館規則改正の認可を受け同時に本館職員事務規程を定む。

四

開館以後

大正七年

○十二月八日開館式を舉行し一般の閲覽を許可す。

大正八年

○九月十五日岡山市立岡山図書館を單に岡山図書館と改稱す。○十月一日本館図書館外携出規程により館外閲覽の取扱を實施す。○十月二十七日有志諸彦の贊助を得故岡山醫學專門學校教授高橋金一郎氏の藏書貳萬九百七拾四冊を金五千圓にて譲受け一般の閲覽に供すべく準備に着手す。

大正九年

○十月二十日本館北側に書庫建築の工事を起す。○十月二十五日本館北側隣

接の縣有地參百參拾七坪九合四勺九才の貸與方を申請し認可の指令に接す

○十月三十日本館圖書目錄及び圖書館要覽を印刷發行す。○館長事務取扱貞松修藏氏本職を免せらる。

大正十年

○一月十日書庫落成す三階建拾五坪、總工費四千貳百圓。○一月二十六日岡山市視學谷口源藏氏本館長事務取扱を命せらる。○五月十日高橋文庫整理完了公開式を舉行し一般の閲覽に供す。○十月十日兒童讀物調査會を設置し調査の結果を一般に公開し圖書選擇の利便に供す。

大正十一年

○一月十日婦人の讀書趣味を養成し思想の向上を謀らんが爲め持廻文庫制度により岡山婦人讀書會を創設す。○三月六日本館規則の一部を改正し館外携出圖書閲覽を個人、團體の二種とし巡回文庫、特派文庫、特設文庫の規程を設け即日實施す。○三月十五日本館北側に隣接せる縣有地を整理し遊戯道具を設備し兒童遊園地を設置す。○四月一日文庫規程により巡回文庫、特派文

五

庫の派遣を實施す ○四月十九日持廻文庫を實施す ○六月三十日高橋文庫印刷目錄を印刷發行す ○十月二十四日學制頒布五十年記念事業として即席揮毫展覽會を開催す。

大正十三年

○三月三十一日讀物調査書を印刷發行し爾後毎年一回發行することとす ○四月一日大正十三年一月 皇太子殿下御成婚を記念せんが爲め御成婚記念文庫五十個を設置し市内青年團、壯年會、婦人會へ無料貸與す ○四月二十一日兒童讀物調査會の範圍を擴張し青年、婦人讀物をも併せ調査することとす。

大正十四年

○四月一日本市伊原木藻平氏よりの寄附金壹千圓をもつて伊原木特設文庫を設置す。

昭和元年

○三月一日岡山婦人讀書會事業として大正十四年十二月 皇孫殿下御降誕を

記念し御降誕記念文庫を設置す ○五月二十日市立岡山圖書館報第一號を印刷發行し爾後毎月一回連續發行することとす ○七月十日大正十五年五月 皇太子殿下本縣行啓を記念し學生文庫を設置す。

昭和二年

○一月二十四日本館北側借用地參百參拾七坪九合四勺九才を本縣に返還す。

昭和三年

○四月一日故山田貞芳氏所藏圖書壹千貳百六拾壹部、參千四百五拾六冊、此見積價格壹千壹百七拾五圓八拾壹錢也を岡山市下田町公森太郎氏より寄附せられ山田文庫を設置し一般の閱覽に供す ○十一月一日大正十五年五月 皇太子殿下本縣行啓御播種の黒松壹本を前庭に植樹す ○十二月三十日本館開館十周年を記念し「市立岡山圖書館十年志」を印刷發行す。

昭和四年

○一月三十日 「兒童文庫の整理と活用」を印刷發行し兒童文庫經營者の參考に供す ○三月二十六日大正十五年五月 皇太子殿下本縣行啓御播種の樟

壹本を前庭に植樹す ○五月十八日より三日間謄寫印刷術普及の爲め第一回謄寫版印刷物展覽會並講習會を開催す ○八月十五日全國諸名士に思想善導上優良適切なる圖書の選定を依頼し「全國諸名士の推薦したる優良圖書」を印刷發行す ○十二月二十五日より向三日間第二回謄寫版印刷物展覽會並講習會を開催す。

昭和五年

○四月十五日郵便局文庫を設置し市内各三等郵便局へ無料貸與す ○五月十六日館長事務取扱谷口源藏氏本職を免せらる ○六月二日日本館司書秋田稔氏館長兼司書に任せらる ○七月二十七日文部省社會教育官水野常吉氏圖書館事務監督のため來館せらる ○十一月一日醫院文庫を設置し市内齒科醫院に無料貸與し患者の閲覽に供す。

昭和六年

○二月一日本館屋根の大修繕及室内全部の塗替修繕をなす。

建 物

本館は岡山市小橋町三十九番地に存在し土地高燥閑雅西に旭川の清流を控へ東に綠翠たる操山を望み四時の風光明眉敷地内には七百餘坪の芝生を有し鬱蒼たる綠樹は一段の風致を添へ讀書の餘心身の靜養に便ならしむべく最も瀟洒なる趣向をこらしてゐる。兒童遊園地には鐵棒、雲梯、辻臺其他各種の遊戯道具を設備し附近兒童の爲め自由に開放してゐる。建物は復興式鐵筋コンクリート二階建てで採光通風に留意してゐることは勿論室内の配置は専ら自由開放主義に則り閲覽者の至便を旨とし特に衛生、清潔に意を用ひ入館者をして好感を抱かしむべく努めた。各室の配置は階上を普通閲覽室とし階下に婦人閲覽室、兒童閲覽室、新聞閲覽室、目錄室其他を設け其の收容人員は普通閲覽室壹百拾四人、婦人閲覽室拾六人、兒童閲覽室五拾六人である。

所在地 岡山市小橋町三十九番地

工 程 大正五年十月起工 大正六年九月竣工
 設計監督 岡山市土木課
 樣 式 復興式
 構 造 本館 鐵筋「コンクリート」二階建
 書 庫 木造瓦葺三階建
 附屬建物 木造瓦葺平家建
 總工費 壹萬七千三百四拾九圓
 敷地面積 九百七坪
 建 坪 九十一坪二合九勺

敷地總坪數		九〇七、〇〇〇
建 物	庭 園	其他
九一、二九		八一五、七一

建物總坪數 九一、二九 (階上八〇、〇)

本館	五四、〇	書庫	一五、〇	附屬建物	二二、二九
(階上 五〇、〇)		(階上 三〇、〇)			
普通閱覽室(階上)	四、〇	階 下	一五、〇	小使室	五、〇
婦人閱覽室	九、〇	(二) 階	一五、〇	便所	三、〇
兒童閱覽室	九、〇	(三) 階	一五、〇	物置	一、五
新聞室	一〇、〇			裝釘室	四、五
目錄室	四、〇			昇降口	四、〇
圖書出納室	四、〇			自轉車置場	四、二九
廊 下(階上)	二、〇				
事務室	九、〇				
玄 關	三、〇				
階 段	一、五				
喫煙室	四、五				

藏書

本館は市民圖書館たる性質より觀るも又公衆一般現時の要望より察するも現在は比較的需用甚き研究的、専門的圖書よりも寧ろ普遍的、一般的圖書の蒐集を必要とする。故に本館藏書は此の趨勢に鑑み凡ては普遍的、一般的圖書を主としてゐる。然し研究的、専門的圖書は此れを縣立圖書館の藏書に俟ち本館又漸を逐ひ機に臨みこれが蒐集を謀らんことを期してゐる。

圖書は一般書庫に藏してゐるが新着圖書は圖書出納室の書架に展列しこれが檢索に至便ならしむると共に周く多數閱覽者に知らしめんとしてゐる。新着圖書の紹介はこれを岡山市公報及び圖書館報に掲載し一般に周知せしめることとしてゐる。兒童用圖書は兒童閱覽室内の書架に排列し兒童に自由に閱覽せしめ時々實地につき閱覽圖書の選擇、閱覽方法等につき懇切なる指導と注意を與へ讀書に對する感興を助長せんことに努めてゐる。

圖書整理上本館全藏書を分けて本館藏書、高橋文庫、御成婚記念文庫、伊原木特設文庫、讀書會文庫、山田文庫の六種とし分類、排列、保存は各個別に取扱つてゐる。蓋し本館經常費をもつて購入したる圖書と特志者の寄附せし圖書とを區別し寄附者に對し敬意を表し永く其の好意に報いんとするに外ならないのである。

本館藏書

本館經常費をもつて購入したる圖書の全部を收む。

高橋文庫

故岡山醫學專門學校教授高橋金一郎氏は廣く内外の圖書を蒐集し其の藏書數萬の多きに達してゐた。未亡人梅子刀自は故人が畢生の心血を瀉ぎて蒐集したる藏書の或は散佚せんことを恐れて其の緣故深き岡山の地に於て一般の閱覽に供し公開せんことを望まれ大正八年八月、時の館長事務取扱貞松修藏氏を経て時の市長中山寛氏及前市長岡田磐氏に謀り有志諸彦の贊助を得て本文

庫の設置公開を劃策せられた。大正八年十月市會の決議により本館内に高橋文庫を設置することとなり爾來日夜圖書の整理に努め大正十年五月十日これが公開式を舉行し一般公衆の閲覽に供することとなつた。

御成婚記念文庫

大正十三年一月 皇太子殿下の御成婚を記念せんが爲め市會に於て滿場一致本文庫の設置を決議された。總經費貳千四百七拾壹圓五錢で内圖書費貳千五拾四圓四拾五錢、設備費四百拾六圓六拾錢、藏書冊數壹千百參拾八冊である。本文庫は専ら派出文庫として通俗的常識修養に關する圖書を蒐集して市内青年會、壯年會、婦人會の各種團體に限り無料にて貸與するものである。

伊原本特設文庫

大正十四年四月本市伊原本藻平氏は同氏經營の店舗改築記念として本館圖書購入費の中へ金壹千圓を寄附せられた。本市は其の好意を感謝し直ちに受納することとした。本館は館則第二十六條及び特設文庫規程により直に本文庫

設置の計畫を樹て全集六部百參冊、辭書四部四冊、單本百九拾四部貳百拾四冊、計貳百四部參百貳拾壹冊を購入し圖書臺帳に登録の上永久保管の手續を了し一般公衆の閲覽に供することとした。

讀書會文庫

岡山婦人讀書會は大正十四年十二月 皇孫殿下御降誕を記念せんが爲め會員及び有志の寄附により記念文庫を設置した。寄附者二百七十四名、寄附金額金參百六拾圓七拾錢也、購入圖書百七拾壹冊である。讀書會は本文庫を基礎として將來漸次新刊圖書を購入追加し本文庫の内容を充實することとした。藏書は主として婦人修養上適切なるものを選択しこれに會員の希望圖書を加へ専ら會員の讀書趣味を涵養し思想の向上を圖らんとする。

山田文庫

故山田貞芳氏夙に國文學、漢文學を修め造詣深く殊に最も趣味を史學に有し郷土史に精通し廣くこれ等に關する圖書を蒐集し其の數實に數千の多きを藏

してゐた。大正九年六月同氏歿後知友數氏相謀り故人が畢生の心血を瀉ぎたる書冊の或は散佚せんことを恐れ故人の最も縁故深き三門學園内に山田文庫を設置することとした。其後特志研究者の爲め本文庫を公開し一般の閱覽に供してゐたが昭和三年四月三門學園の縣營移管に際し公森太郎、木畑竹三郎藏知矩、岡村正義の諸氏相謀り本文庫の利用をして一層顯著ならしめんが爲め本文庫圖書壹千貳百八拾貳部、參千五百四拾冊、此見積價格金壹千壹百七拾五圓八拾壹錢也を本市に寄附し本館内に山田文庫を特設せんことを謀らる本市は其の旨を了とし直に寄附受領の手續を了し永久保管の上一般公衆の閱覽に供することとした。

分類別藏書冊數

【昭和六年三月末現在】

分類	函別	本館藏書	高橋文庫	御成婚記念文庫	伊原木特設文庫	讀書會	山田文庫	計
總記、雜書		二、五五	七、六八	二五四	三七	二七	六八七	二、三〇一

宗教、哲學	一、三三三	二、三四四	一五九	三三	一六	一六	四、〇三二
文學、語學	二、三九〇	三、六七八	二九二	一七〇	二二二	一、五七七	八、三二九
歴史、地理	一、七五四	二、一九四	一四七	三〇	三二	七五	四、八八一
産業	四九一	二六九	二二	七	一	五	七六六
法制、經濟	二、〇一〇	九一一	一三五	二六	七	七三	三、一六二
理學、醫學	五九四	二、六〇二	四七	八	四	五〇	三、三〇五
工學、兵事	二六〇	三七三	四	二		五九	六九八
美術、家事	四八一	六五二	六六	九	二二	一六五	一、三九六
少年圖書	一、八四二	一三〇			二		一、九七四
計	一三、六二〇	二〇、九三四	一、二二七	三二二	三三三	三、五四〇	三九、八六五

和漢書分類表

〇〇〇

總記

〇一〇 目錄解題
 〇二〇 辭書
 〇三〇 類書
 〇四〇 叢書
 〇五〇 感想隨筆
 〇六〇 貴重圖書
 〇七〇 鄉土資料
 〇八〇 新聞雜誌
 〇九〇 論說講演

一〇〇

宗教

一一〇 神教書
 一二〇 宗教學
 一三〇 哲學
 一四〇 修養
 一五〇 倫理
 一六〇 心理
 一七〇 論理
 一八〇 思想
 一九〇 教育

二〇〇

文學語學

二二〇 文學
 二三〇 國文學
 二四〇 漢文
 二五〇 歐米文學
 二六〇 現代小說
 二七〇 時代小說
 二八〇 國語學
 二九〇 外國語學

三〇〇

歷史地理

三一〇 歷史
 三二〇 日本歷史
 三三〇 外國歷史
 三四〇 傳記
 三五〇 地理誌
 三六〇 日本地理誌
 三七〇 外國地理誌
 三八〇 紀行見聞圖
 三九〇 地圖

四〇〇 產 業

四一〇 商 業
四二〇 交 通 信 業
四三〇 工 業
四四〇 農 業
四五〇 園 藝
四六〇 山 林
四七〇 牧 畜 禽
四八〇 水 產 漁 業
四九〇 蠶 絲 業

五〇〇 法 制 經 濟

五一〇 法 律
五二〇 政 治
五三〇 行 政
五四〇 經 濟
五五〇 財 政
五六〇 統 計
五七〇 社 會
五八〇 風 俗
五九〇 婦 人 問 題

六〇〇 理 學 醫 學

六一〇 數 學
六二〇 科 學
六三〇 物 理 化 學
六四〇 天 文 地 文
六五〇 地 質 學
六六〇 博 物 學
六七〇 醫 學
六八〇 衛 生 學
六九〇 獸 醫 學

七〇〇 工 學 兵 事

七一〇 工 學
七二〇 土 木 工 學
七三〇 機 械 工 學
七四〇 電 氣 工 學
七五〇 建 築
七六〇 造 船
七七〇 採 礦 冶 金
七八〇 航 海
七九〇 兵 事

八〇〇 美術諸藝家事

- 八一〇 書畫圖案
- 八二〇 彫刻圖案
- 八三〇 塗物
- 八四〇 寫真
- 八五〇 印刷
- 八六〇 音樂
- 八七〇 諸藝
- 八八〇 體育
- 八九〇 家事

九〇〇 少年用圖書

- 九一〇 辭書
- 九二〇 修身作法
- 九三〇 文學
- 九四〇 歷史傳記
- 九五〇 地理紀行
- 九六〇 算術理科
- 九七〇 圖畫手工
- 九八〇 體操遊戲
- 九九〇 準備書

洋書分類表

- 000 General works.
- 100 Religion, Philosophy, Education.
- 200 Literature, Language.
- 300 History, Biography Geography & Travels.
- 400 Industries.
- 500 Legislation, Political economy, Finance, Statistics, Socialscience.
- 600 Science.
- 700 Medicine.
- 800 Engineering, Military & Naval science.
- 900 Finearts, Amusements & Athletics.

目 録

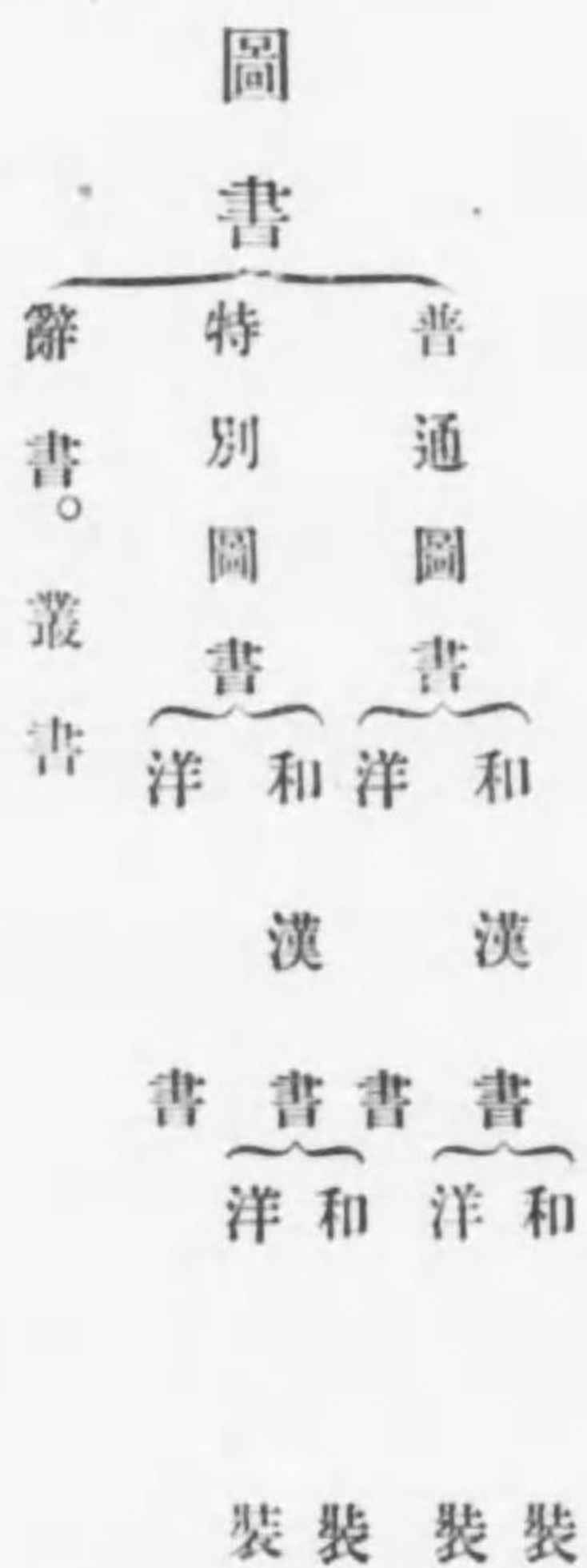
本館の圖書は左の六種とし別に事務用目録として『カード』式目録を備へてゐる。印刷目録は高橋文庫、御成婚記念文庫等特別圖書に限りこれを整へることとしてゐる。

目録『カード』の排列は和漢書目録は總て五十音順に依り洋書目録は羅馬字アルハベット順に排列した。



排 列 法

本館圖書の排列法は分類式自由法により各分類項目間に相當の間隔を存し増加圖書所藏の餘地を残し排列に至便ならしめてゐる。全体圖書を普通圖書と特別圖書とに區別し更らに各々和漢書洋書の二種に分ち和漢書は更らに洋装、和装の二種に細別し圖書の保管上、毀損の憂なからしめんとする。尙ほ書架狹隘の爲め辭書、叢書に限り一般圖書より分離して別途にこれを所藏し又検索に至便ならしむ。



は普通閱覽と何等異なることはない。

讀物調査會

近時一般讀書熱の勃興につれ各種讀物の陸續として出現せるは普通教育振興上慶賀すべきことである。然るにこれ等多數の讀物につき其の内容の良否は讀者の思想に影響するところ多大でこれが選擇上、大に考慮を要すべきことである。本館はここに顧みる所ありて讀物調査會を組織し一般出版物中兒童青年、婦人の讀物につき其の内容、形式の良否を審査し優良適切なるものを選択推薦して讀者の参考に供し一面讀物選擇上の利便に供することとする。其の要項を示せば左の通りである。

讀物調査會要項

- 一 本會は市立岡山圖書館の一事業にして讀物調査會と稱す。
- 一 兒童、青年、婦人の各讀物につき調査研究し其の優良と認むるものを選択推薦す。
- 一 讀物調査委員は市立十四小學校全職員に委嘱し職員は毎月交替にて讀物調査に従事す。
- 一 各月の讀物調査委員の選定は此れを各學校長に委嘱す。

- 一 調査すべき讀物は圖書館より各學校へ送附す。
- 一 調査委員は精讀審査の上別紙所定の讀物調査表により其の結果を圖書館に報告す。
- 一 審査の結果は毎月此れを圖書館報に掲載し毎年一回これを一纏めとなし小冊子「讀物調査書」を刊行す。
- 一 讀物調査書は學校、圖書館、その他各種団体へ無料にて配付す。
- 一 審査の結果を一般に周知せしめんが爲め新聞及び岡山市公報に掲載しこれが紹介をなす

良書推薦

社會の動搖と思想の惡化此の一大變革の期に遭遇し各種讀物の思想界に及ぼす威力は實に恐るべきものがある。本館は各種優良圖書を選定し廣く一般に宣傳して此の危機に瀕せる思想界に對し此れが善導の任に當らんとする。尙ほ近時「時局問題」「各種時事問題」「各種流行物」等に對しこれ等に關聯せる讀物は或は精密にして専門的學研用に偏し或は杜撰にして其の當を得ざるもの多數なるに鑑み其の最も該切なるものを選定し些か讀書子の圖書選定の指針たらんことを期する。

圖書推薦要項

一 選定圖書

思想問題、時局問題、時事問題、流行物等に關するもの。

一 宣傳方法

館内掲示、印刷物配付、圖書館報掲載、岡山市公報掲載、新聞掲載。

一 宣傳時期

隨時、各種宣傳日、讀書週間。

個人貸出

本館は其の位置旭水河畔高燥閑雅なる地に存在し最も讀書に適してゐるが稍々市の東部に偏したるやの感がある。故に遍く全市に涉り熱心なる讀書子の全部登館を期待することの出来ないのは遺憾である。此れ等幾多熱心なる讀書子に對し、些の不滿なからしめんが爲めには只に對內的館内閱覽のみをもつて満足すべきではない。進んでは對外的館外閱覽の便法を作り此れが缺陷

を補填し此れ等讀書子の讀書慾を満たし圖書館利用の途を開拓するは現下最も緊急のことである。大正八年圖書携出規程を大正十一年巡回文庫及特派文庫規程を制定し、又大正十一年岡山婦人讀書會を組織し持廻文庫を設け館外閱覽に對しては本館全力の一半を傾注し此れが開拓に努力することとした。特に個人閱覽に對しては深甚なる注意と精進の努力とを致し、圖書の携出及返還手續、期間、種類等も本館所定の圖書携出規程によること勿論なるも特別の事情あるものに對しては適宜便法を講ずることとしてゐる。携出手續は簡易を旨とし携出毎に要する複雑なる借用証制度を廢し「カード」式により繼續使用の出來得るやう注意した。期間滿了後、連續借覽の場合の如き別に形式的圖書の返還を要求せず口頭、書面、電話等適宜届出の上これを承認することとしてゐる。要するに本館は其の位置偏在し全市讀書子の登館に多大の不便を感ずる爲め借覽手續上に要する時間を空費せざるやう務めて讀者の利便を計ることとしてゐる。本携出は料金一ヶ年有効金壹圓、一回の貸出冊數三冊以内、期間を十日乃至二十日以内とする。

団体貸出

団体貸出は本市内にありて「會社」「六人以上の使用人を有する店舗」「十人以上の団体で其の一人が直接國稅參圓以上を納むるもの」「青年會、壯年會、婦人會等修養を目的とせる団体」へ料金一ヶ年有効金五圓で貸出するので貸出冊数は二十冊以内とする。但し同一団体にて特許証數枚を請求することが出来る。貸出期間は個人貸出と別に變りはない。

婦人讀書會

社會の文化は日月と共に推移し此れが長足の進歩を見るに至つた。特にこの進運に伴ひ我が國婦人の家庭的に生活的に社會的に覺醒しつつある氣運は實に著しきものがある。此の秋に當り高尚なる趣味と健全なる圖書を一般家庭と社會とに注入して思想の穩健と向上とを計るは現下の喫緊事である。山來我が國の習慣として婦人は家庭以外の場所にて讀書することは困難なる状態にあるので此れ等の事情に鑑み茲に岡山婦人讀書會を組織するに至つた。本

會は毎週一回會員の家庭に各種の圖書を配達し居ながら讀書するの利便を得しめ婦人に對する讀書趣味の養成と思想の向上發達とを期し一方圖書館の普及發達に努め本館藏書利用の途を拓き全市をして圖書館化せんことを期するものである。本會は大正十一年一月十日の創立で目下會員三百八十四人、貸附圖書冊數實に九百十八冊の多數に上つてゐる。會長には坂本鶴子女史を推し以下幹事、評議員、事務員若干名にて會務を處理し逐年累進的不斷的活動を續けて本會の目的に向つて進んでゐる。又本會には年二回機關雜誌を發行し會員と本會の聯絡、會員相互の親睦、學術に關する研究發表を爲し本會の發展に資せんとしてゐる。

特派文庫

讀書趣味の涵養に努め圖書館利用の途を開拓して事業の普及發達を期し社會教化の上に資し而して時代に順應せんが爲め派出文庫を設置した。本文庫は恰も血液の心臓より全身を循環するが如く大營養分を有する圖書は全市を循

環し全市民はこれに依りて各自の心神を培養し圖書館設置の恩恵に均霑し得るものである。本文庫は諸官衙、銀行、會社、青年訓練所其他多數人の集せる場所へ特派するもので閲覽は無料で管理者の許諾を得て、自宅讀書の便を認めてゐる。目下派出せるものの中紡績會社、裁判所陪審員宿舍、專賣局等は閲覽成績最も優良にして常に歓迎せられ累進的發展の好況を呈してゐる殊に青年訓練所は本文庫の利用に關し幹部の指導よろしきを得派出以來非常なる歓迎を受け青年の修養上資するところ多大なるべきを信する。一文庫の藏書冊數は三十冊乃至四十冊で閲覽濟の上は隨時取替へることとしてゐる。

御成婚記念文庫

本文庫は大正十三年皇太子殿下の御成婚を記念するが爲めに設置したもので市内青年會、壯年會、婦人會の各種團體に限り無料にて貸與するものである會員は其の會管理者の許諾を得各自家庭に持ち歸り自由に閲覽することとしてゐる。一文庫の藏書冊數三十冊乃至四十冊で隔月一回これを取替へ圖書の

運轉をして可成迅速ならしめんとする。

兒童文庫

小學兒童の圖書館利用の時間は或る一定時に局限され且つ遠隔なる地方の兒童は自然これが利用に不便を感じるこの大なるを遺憾とする。市の東部に偏在せる本館を利用せる小學校は僅々數校に限られたるやの感がある。此の現狀に鑑み全市兒童をして此れが利用につき普遍的ならしめ圖書館設置の恩恵に均霑せしむべく本文庫を派出することとした。本文庫の圖書は只學校内にて閲覽し得るばかりではない希望の圖書は管理者の許諾を得家庭に携出閲覽し得る便法をも講じてゐる。本文庫は派出制度によりこれが管理は學校に委任することとしてゐる。一文庫藏書冊數は三十冊乃至四十冊で閲覽期間は別にこれを定めず各學校の任意とし請求に應じ隨時取替へることとしてゐる尙ほ本文庫の派出は小學校のみに限定せず市内各町子供會にも派出し普く本文庫利用の途を拓かんことに努めてゐる。

理髮文庫

三六

「時は金、理髮待つ間も本を読み」理髮待つ其の間の讀書、本文庫によりて僅少の時間をも徒費することなく自己の修養に努め思想の向上を計り時代の進運に遅れざらんことを期せねばならぬ。本文庫は巡回制度により市内理髮店の希望に應じ何時にてもこれを派出する。文庫は常に店頭に設置し理髮者は希望により自由に閲覽することを得。一文庫の藏書冊數は十五冊乃至二十冊で毎月一回順次取替へることとしてゐる。

郵便局文庫

本文庫は市内二十餘の三等郵便局に派出しこれ等郵便局員の修養の資に供せんとするものである。藏書は修養を主としこれに娛樂、趣味に關するものを加味し専ら局員の心身の培養と思想の向上を計らんことを期してゐる。本文庫は巡回制度により一ヶ月毎に巡回し閲覽は自由にして自宅讀書の便法をも講じてゐる。管理は全部これを局長に委任することとしてゐる。一文庫の藏

書冊數は二十冊乃至二十五冊である。

醫院文庫

本文庫は市内齒科醫院に限り特派するものでこれを待合室に常設し受診を待つ其の間の閲覽に供せんとするものである。閲覽は無料自由閲覽とし一ヶ月毎に取替巡回することとしてゐる。一文庫の藏書冊數は二十冊乃至二十五冊で藏書は主として修養の資となるべき感想、隨筆の如き短編集を採擇しこれに多少の趣味讀物を加味してゐる。

278
83

昭和六年九月一日印刷
昭和六年九月五日發行

非 賣 品	
編輯兼 發行者	吉岡三平 岡山縣岡山市上伊福二八四
印刷者	中桐三太郎 岡山縣岡山市仁王町一三
印刷所	中桐印刷所 岡山縣岡山市仁王町一三

發行所 岡山縣岡山市小橋町三九
市立岡山圖書館

終

